

2011.1.16

徳島新聞

がん予防のススメ Vol.11

網膜芽細胞腫の 早期発見のために



徳島大学病院 眼科医員

富田 真知子 氏

眼内悪性腫瘍の
うち小児に最も多

いのが網膜芽細胞腫で、一万五千出生に一人の割合で発症します。瞳孔の後ろが白く反射する「白色瞳孔」という症状や斜視、低視力などをきっかけに発見されることが多く、片眼性と両眼性があります。

腫瘍の進行度に応じて治療法は異なり、小さな腫瘍であればレーザー治療や冷凍凝固術などで眼球温存が可能です。一方で、大きい腫瘍や進行している場合などは眼球摘出術が必要な場合もあります。また局所治療だけでなく全身化学療法などを併用することもあります。

早期に発見し適切な治療を行うために、もしご家族が白色瞳孔などの症状に気づいたら、早めに眼科での診察を受けるようにしましょう。



徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ

■徳島大学病院: Tel.088-631-3111

■がん診療連携センター: Tel.088-633-7312

■徳島がん対策センター相談窓口: Tel.088-633-9438